

実地医家のための

日常診療に役立つ漢方診療

明日からの診療にすぐに役立つ漢方

プランナー&講師

渡辺 賢治 先生

慶應義塾大学医学部 漢方医学センター 准教授

開催：2010年4月25日（日）

目 次

日常診療に役立つ漢方診療

明日からの診療にすぐに役立つ漢方

慶應義塾大学医学部 漢方医学センター 渡辺 賢治

漢方の基本概念

- | | |
|---------------------|---|
| 1. 漢方医学の基本的思想 | 2 |
| 2. 漢方の診断方法 | 9 |

疾患別漢方治療

- | | |
|---------------------|----|
| 3. 胃もたれ・食欲不振 | 40 |
| 4. 胃痛・胸やけ | 43 |
| 5. 便秘 | 47 |
| 6. 下痢・過敏性腸症候群 | 51 |
| 7. 花粉症の漢方治療 | 53 |
| 8. 喘息の漢方治療 | 55 |
| 9. 疼痛に対する漢方薬 | 60 |

実地医家のための

日常診療に役立つ漢方診療

明日からの診療にすぐに役立つ漢方

渡辺 賢治

慶應義塾大学医学部 漢方医学センター 准教授

現代医療における漢方医学の役割

漢方の基本概念

実は漢方医学は日本独自の医学

江戸時代になり、ヨーロッパ医学がオランダ経由で入ってくると、オランダの医学ということで「蘭方」という言葉ができた。それに対し、それまでわが国で行われてきた医学を「漢方」と呼ぶようになった。

漢方医学の基本的思想

慶應義塾大学

中国古代の治療の考え方

上工は未病を治し、已病を治さず
(靈樞)

聖人はすでに病んでしまったものを治すのではなく、未病を治すものである。また国が乱れてしまってから治めるのではなく、まだ乱れないうちにより政治を行うものだと古くからいわれる。病気になりきってしまったから薬を飲んだり国が乱れてから政治を行うというのはたとえていうなら咽が乾いてから井戸を掘ったり、戦いが始まってから兵器を製造するようなもので、遅きに過ぎる。
(素問)

慶應義塾大学

孫思邈「千金要方」

人の命は千金よりも尊し

上医	癒国	医未病之病
中医	癒人	医欲病之病
下医	癒病	医既病之病

慶應義塾大学

神農本草經 (後漢代の本草書)

本草の三品分類

上薬 120種 養命薬 君主の役目

生命を養い、毒性がない。長期服用してもよいし、そうすべきでもある。身体を軽くし、元気を益し、不老長寿の作用がある。

中薬 120種 養性薬 臣下の役目

体力を養う目的の薬で、使い方次第で無毒にも有毒にもなる。服用に当たっては注意が必要。病気を予防し、虚弱な身体を強壮にする。

下薬 125種 治病薬 佐使(召使)

有毒であるので長期間服用してはならない。寒熱の邪気を除き、胸腹部にできたしこりを破壊し、病気を治す。

慶應義塾大学

漢方薬は複数生薬から成る



慶應義塾大学

漢方薬普及の理由

1. 細分化されすぎた西洋医学に対する反省
2. 副作用への危惧
3. 不定愁訴に対する扱い
4. 疾病構造の変化

慶應義塾大学

周礼（しゅらい） 周（紀元前1100年頃～前256）

医師の四つの区別

1. 食医（食事療法医）
2. 疾医（内科医）
3. 瘍医（外科医）
4. 獣医

慶應義塾大学

個々に合わせたオーダーメイドの医学

現代医学—集団で得られた知見を個人に当てはめようとする。

漢方医学—個々人の個体差を基本においた治療医学

慶應義塾大学

漢方医学は個人差を重視する

異病同治

異なる病名でも同じ薬で治療する。

同病異治

同じ病気を持っていても個人個人の病気に対する応答は異なる。

同病異治

風邪

麻黄湯
葛根湯
桂枝湯
麻黄附子細辛湯
香蘇散
麦門冬湯

異病同治

八味地黄丸—腎虚の薬

糖尿病
腰痛
白内障
高血圧

前立腺肥大
陰萎
耳鳴

生薬の組み合わせによる多面的効果

1. 多面的薬効を有する。
2. 病気を治すのではなく人を治す。
3. 薬剤の節減が可能であり、医療費の節減につながる（例 八味地黄丸）。

証の二つの要素

長年の経験から生れた患者と薬方との相性を診断するための手段であり、以下の条件を満たすもの

- ・薬効を最も発揮する
- ・副作用の可能性が最も少ない

漢方の診断方法

現代西洋医学 vs. 漢方医学

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 分析的 ・ 臓器/細胞をターゲット ・ 効率を重んじる（公衆衛生学の進歩） ・ 急性疾患（感染症）や外科的手術に成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 全人的 ・ 焦点は患者 ・ 個人の重視（効率的ではない） ・ 予防医学、QOLの向上に成果 |
|---|--|

平素の体力から見た虚・実

	実証	虚証
体型	筋肉質	痩せ、水太り
活動性	活発	消極的
栄養状態	良好	不良
皮膚	光沢・つや	さめ肌・乾燥
筋肉	発達良好	発達不良
消化吸収	大食	少食
便通	便秘しても平気	下痢が多い
体温調節	季節に順応	夏ばて・冬疲れる
病気になった時に汗を	かきにくい	かきやすい



寒熱

- 寒熱は患者の自覚によるものであり必ずしも体を測定して決定するものではない。たとえ体温の上昇がなくても病人が自覚的に熱感を訴え、顔色が赤味を帯びており、あるいは発汗傾向があれば「熱」であり、体温計で熱があっても本人が寒気を訴え青白い顔でガタガタ震えていれば「寒」である。

慶應義塾大学

漢方の診断

急性疾患は六病位で

漢方では時間軸を重視する

慢性疾患は気・血・水で

慢性疾患では体質を重んじてその弱いところを治療する

慶應義塾大学

かぜにおける寒熱は自覚症状

陽（熱）証

体温の上昇に関わらず自覚的に熱感があり、顔色が赤味を帯びて発汗傾向がある。

陰（寒）証

体温計で熱があっても本人が寒気を訴え青白い顔でガタガタ震える。

- 熱感・悪寒・頭痛
- からだが熱く、冷たいものを欲する
- 顔が紅潮
- 尿量が少なく色が濃い
- 便秘気味あるいは便の臭いが強い
- ★ 脈が“浮いて”いて速い
- 悪寒（熱感なし）
- 暖かいものを欲する
- 顔が蒼白い
- からだのだるく横になっていた
- 食欲減退、四肢の冷え
- 尿量は概して多く色は薄い
- ★ 脈は“沈んで”いて遅い

慶應義塾大学

『傷寒論』における六病位

三陰三陽 病気の進行に伴い区分

太陽病 かぜのひきはじめて病邪がまだ表にある

陽明病 病邪がお腹にまで達して高熱が出る

少陽病 病邪が呼吸器系に達して咳、痰が出始める

太陰病 長引いて消化器機能が落ちてくる

少陰病 体力が消耗して倦怠感が強い。

厥陰病 体力が落ちきって熱産生ができない重篤な状態

慶應義塾大学

『傷寒論』における六病位

三陰三陽 病気の進行に伴い区分

太陽病 悪寒、発熱、頭痛、項強、脈は浮

陽明病 悪熱、潮熱、譫語、不大便、脈は実緊または滑疾

少陽病 往来寒熱、胸脇苦満、心煩喜嘔、口苦、咽乾、目眩、舌上白胎、脈は弦

太陰病 腹満、嘔吐、食下らず、自利、時に腹痛、手足温で不渴

少陰病 脈微細、但寝んと欲す。心煩、自利、口渴、手足寒あるいは咽中痛

厥陰病 消渴、気心に上撞す。心中疼痛、餓えて食を欲せず。吐利甚しく、四肢厥逆す。

慶應義塾大学

六病位に則らない場合

- 虚弱者や高齢者
- 元来から冷え症で体力がない
- 普段は体力があっても体力消耗してしまった

⇒ じきちゅうのしょういん **直中の少陰** いきなり少陰病から始まる

慶應義塾大学

漢方における風邪の治療

風邪と体のせめぎ合い

病気の進行度が鍵



慶應義塾大学

西洋医学と漢方医学の物の見方の相違

西洋医学的

「病気」を治療する。よって病名が決まらなないと治療方針が立たない。治療は病変部や関連症状に対処する。

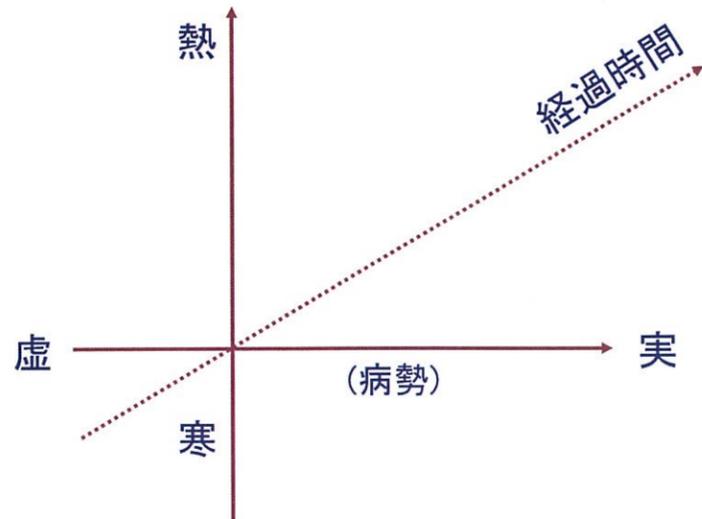


漢方医学的

個々の患者さんを「一人の病める人間」として捉え、全体像を診断して（証）全身を修復する「全人医療」を行う。体のバランスの崩れ・歪みを正す。

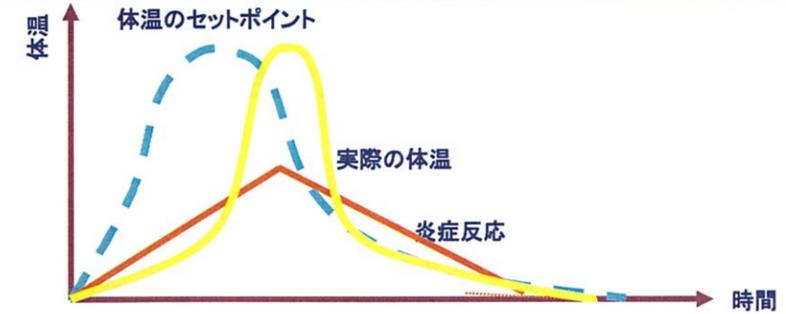
慶應義塾大学

風邪の漢方治療を決定する要素



慶應義塾大学

発熱はウイルス排除のための生体防御手段



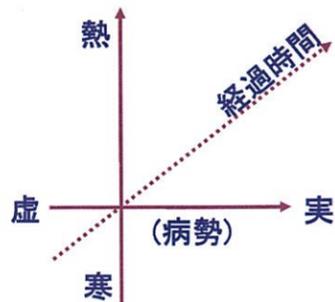
発熱

→ ウイルスの排除

鶴見雄二、漢方調剤研究、5、19(1997)

慶應義塾大学

風邪と体のせめぎ合い



平素の体力(虚実) 対 病気の勢い
⇒ 病勢の虚実

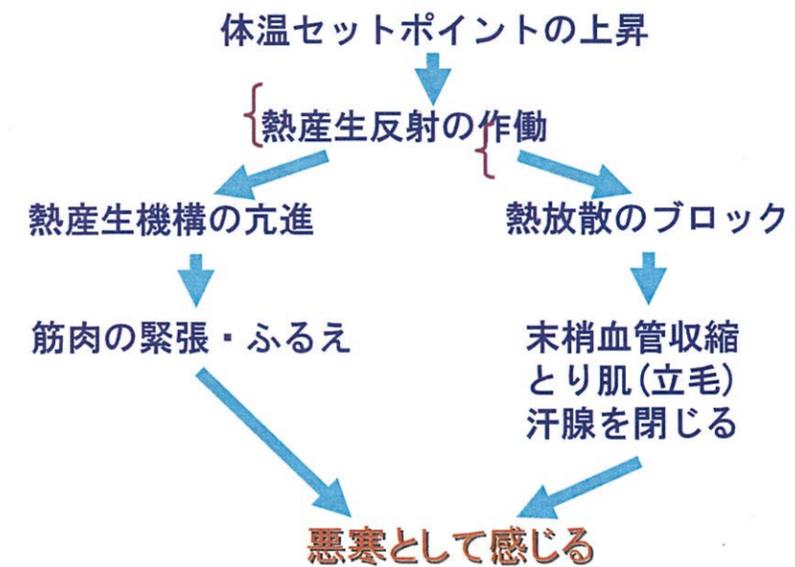
体の反応 ⇒ 寒熱 (陰陽)

病気の位置 ⇒ 表裏

疾患の経過 ⇒ 六病位

慶應義塾大学

発熱の機構



慶應義塾大学

かぜの初期 (汗をかかない)

平素の体力がある程度ある場合、熱産生反応は十分にある。

葛根湯

平素体力がある程度ある。
風邪の初期で寒気がする。
首筋が張る、頭痛、熱の出始め



麻黄湯

平素体力があり、風邪の勢いが強く、体の深く入り込む。
悪寒、発熱に加えて関節痛、筋肉痛を伴う。
ゼーゼーしたり、咳・痰が出る。

慶應義塾大学

かぜの初期 (汗をかいている)

桂枝湯

日ごろから体力があまりない
風邪を引いてすぐに汗をかき始める。
のぼせ、鼻炎、頭痛などを伴うもの。

香蘇散

比較的体力がない
発熱、頭痛
不安、不眠、抑うつ傾向などの精神神経症状
食欲不振、悪心、腹部膨満間などの胃腸症状
高齢者、妊婦さんでも安心して使える
比較的かぜのどの時期でも効果がある。

慶應義塾大学

かぜの初期 (陰証のかぜ)

麻黄附子細辛湯

顔色が蒼白く体全体が冷や冷やする 熱感はない
微熱はあるが、汗もかかない
頭に鈍い痛みがあり、倦怠感が強い
水様性鼻汁や咳 のどがチクチク痛む
関節など手足の冷えや痛み

真武湯

平素冷えがあり、胃腸が弱い
かぜによる下痢
だるくて横になりたい



慶應義塾大学

かぜの中期 (かぜをひいて3~7日)

この時期はとにかく無理をせずに体を休めることを心がける。

小柴胡湯

風邪を引いて熱が上昇し、咳、痰が出始める
扁桃腺やリンパ節が腫れる
歩いていてもふらふらしてしまう

柴胡桂枝湯

小柴胡湯の目標に加えて頭痛、関節痛などがある
小柴胡湯よりやや体力がない人の風邪

慶應義塾大学

かぜの慢性期 (かぜをひいて7 ~10日以降)

こじらせてしまい咳・痰が続く 安静が第一

麦門冬湯

空咳が取れず、痰を出そうとして顔を真っ赤に咳き込む。

麻杏甘石湯

痰があまり多くない咳で時にゼーゼーと音がする
発汗傾向がありのどが渇く
胃腸は丈夫

竹茹温胆湯

咳・痰だけが残る、夜眠れない時など

 慶應義塾大学

かぜの回復期 (病み上がり)

無理をせず徐々に日常に復帰するようにする。

補中益気湯

風邪の症状はほとんど取れているがだるい
食欲が出てこない
微熱が残る
寝汗が出る

 慶應義塾大学

慢性疾患の治療にはその人の弱いところを見つける

気
血
水

 慶應義塾大学



からだを機能させるために必要な要素

- ・人間の体は気・血・水すべてが体内を循環して正常に働いている。
- ・それぞれが鬱滞・偏在することにより様々な障害を起こす。

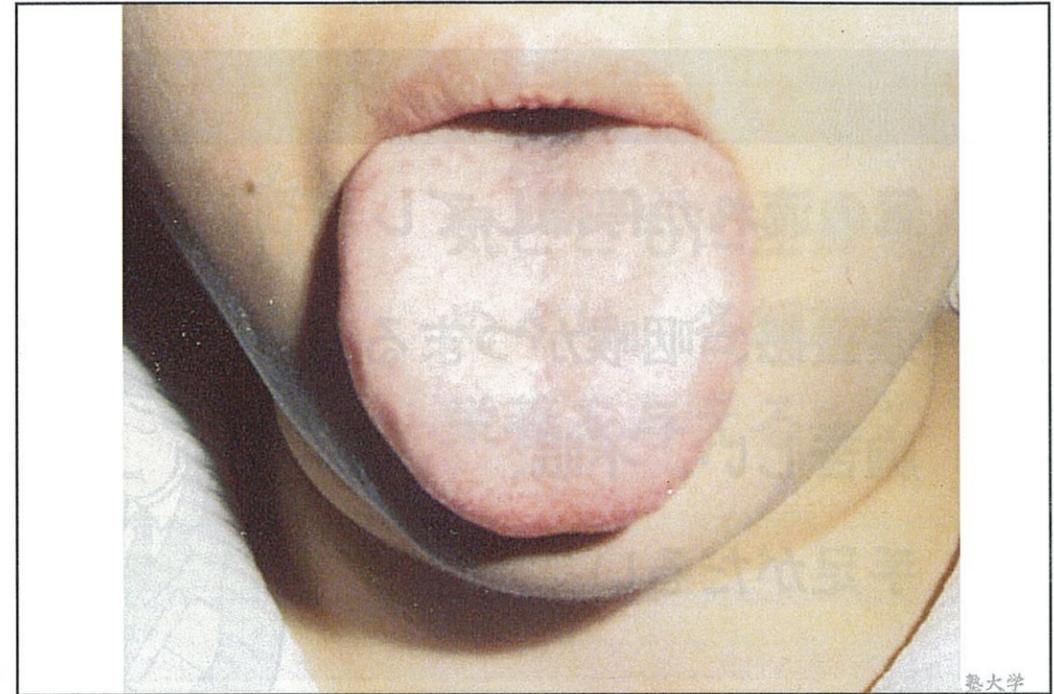
 慶應義塾大学

気

生命活動の根源
『淮南子』『黄帝内经』
紀元前2~1世紀

- 気が若い
- 気が短い
- 気を落とす
- 気を失う
- やる気がない
- 気の抜けた状態

慶應義塾大学



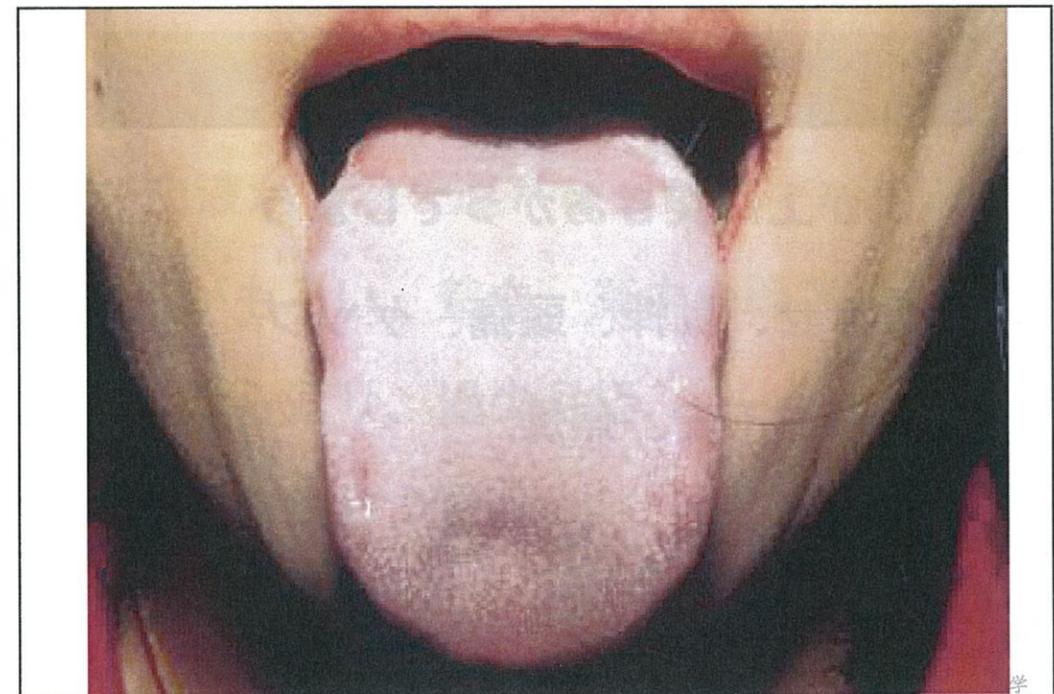
慶大

気虚 (ききょ)

根元の気が全身的に不足している状態

元気が出ない、気力がない、体がだるい、
疲れやすい、食欲・意欲がない

日中の眠気 (特に食後眠くなる)



学

気うつ

気の流れが停滞してしまう

頭重感、咽喉がつまる、

胸苦しい、不眠、

手足がだるい



気逆 (きぎゃく)

気が上に突きあがってしまう

のぼせ、動悸、頭痛、ゲップ

発汗、不安、焦燥

顔面の紅潮



血液

気とともに全身をめぐり、各組織に栄養を与えるもの

慶應義塾大学

血虚 (けっきょ)

血液が栄養を運べなくなる

爪がもろい、貧血、集中力低下、

こむら返り、過少月経、

皮膚のかさつき、

白髪、脱毛



瘀血（おけつ）

血の巡りが悪くなった微小循環障害

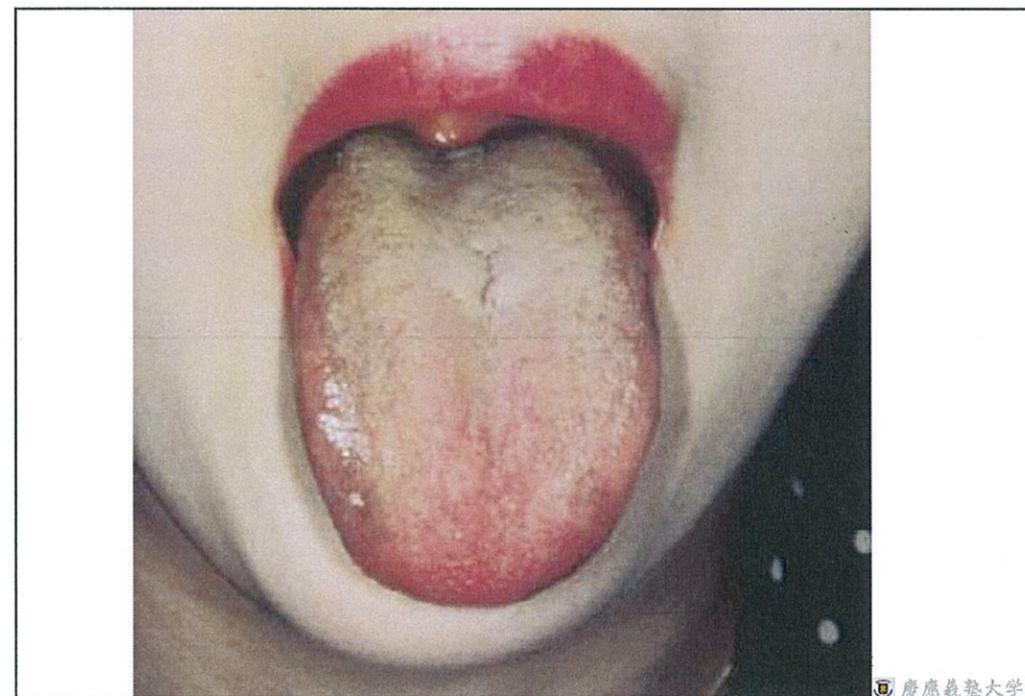
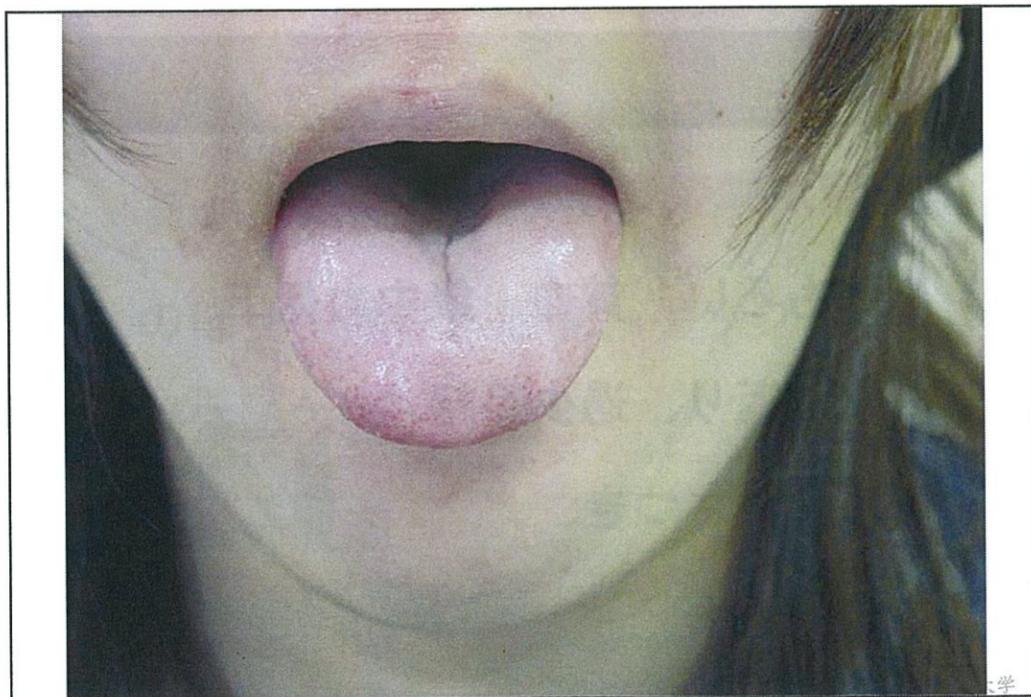
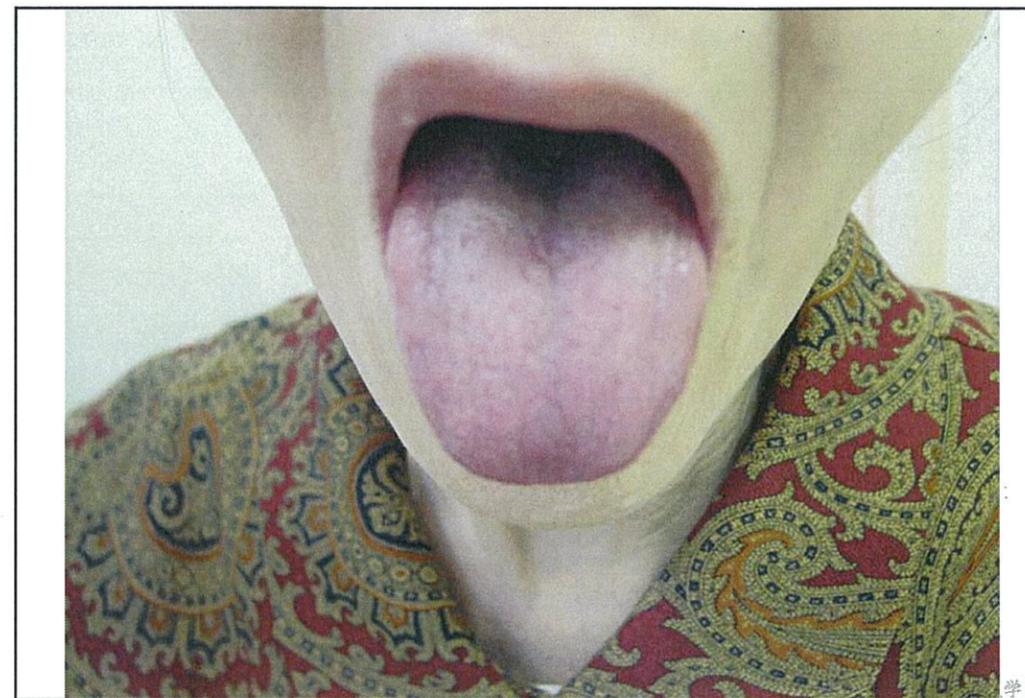
口が乾く、唇や舌の暗赤色化

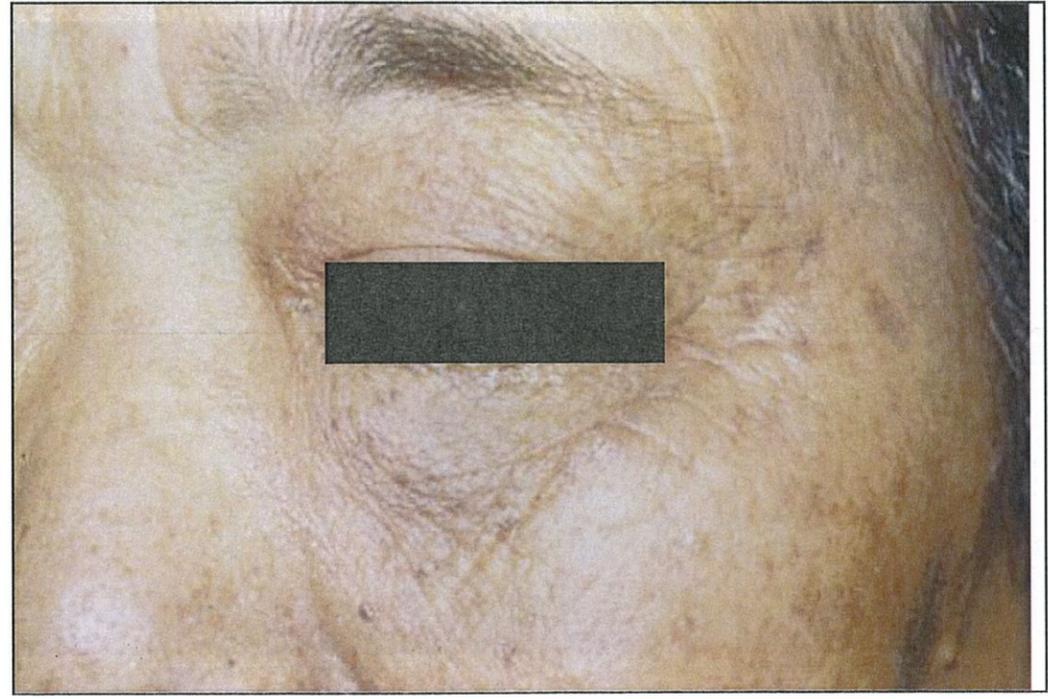
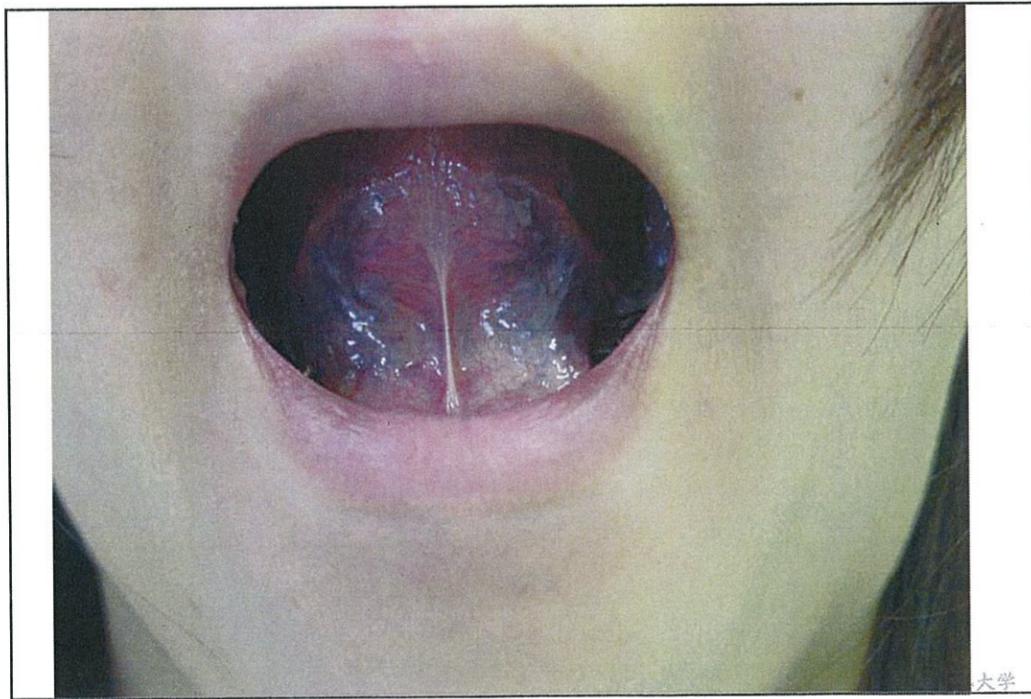
色素沈着、静脈瘤

細絡（毛細血管の拡張）

目の下のクマ、痔

月経異常









血液以外の体液

津液 (しんえき)
生理的体液

痰飲 (たんいん)
病的な体液

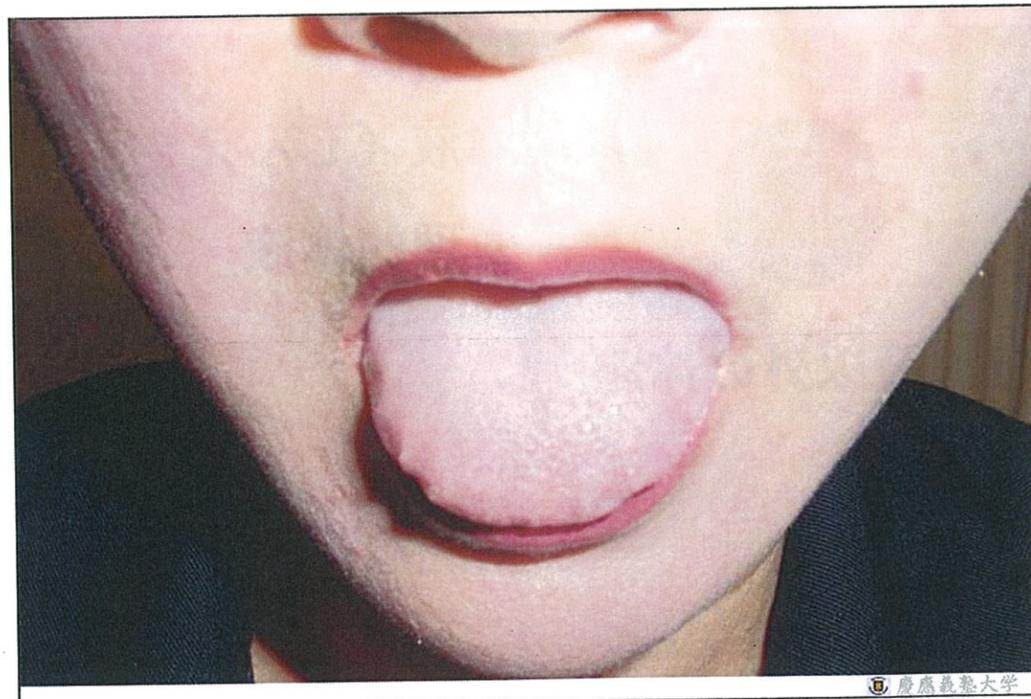
水 毒 (すいどく)

水の変調、偏在によって起こる症状

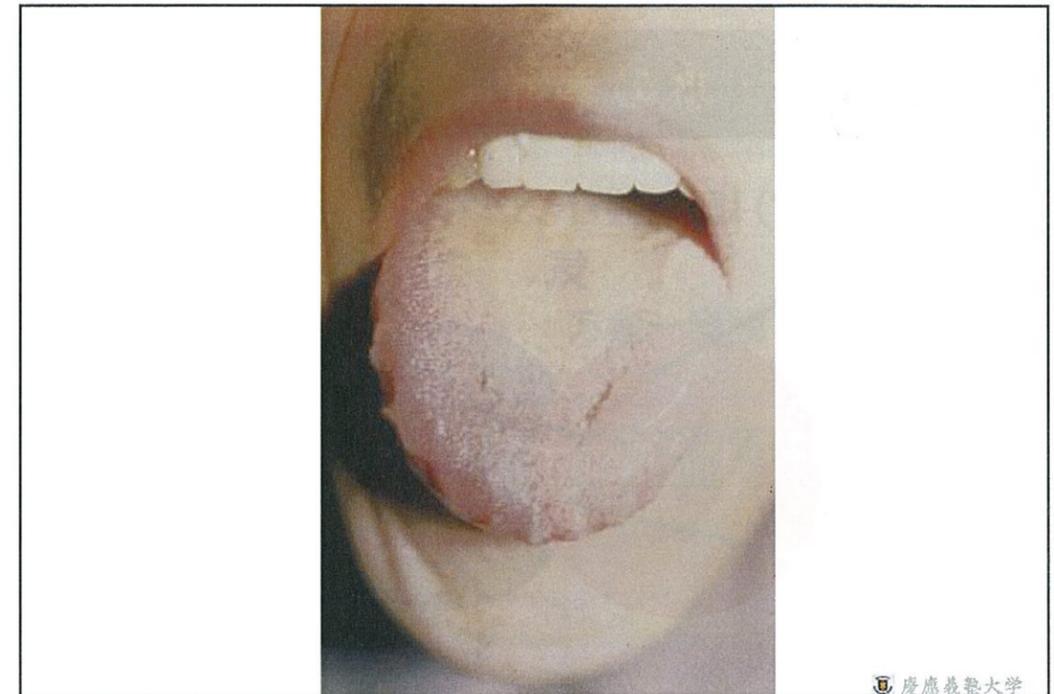
めまい、立ちくらみ、頭重感

乗り物酔い、悪心、下痢

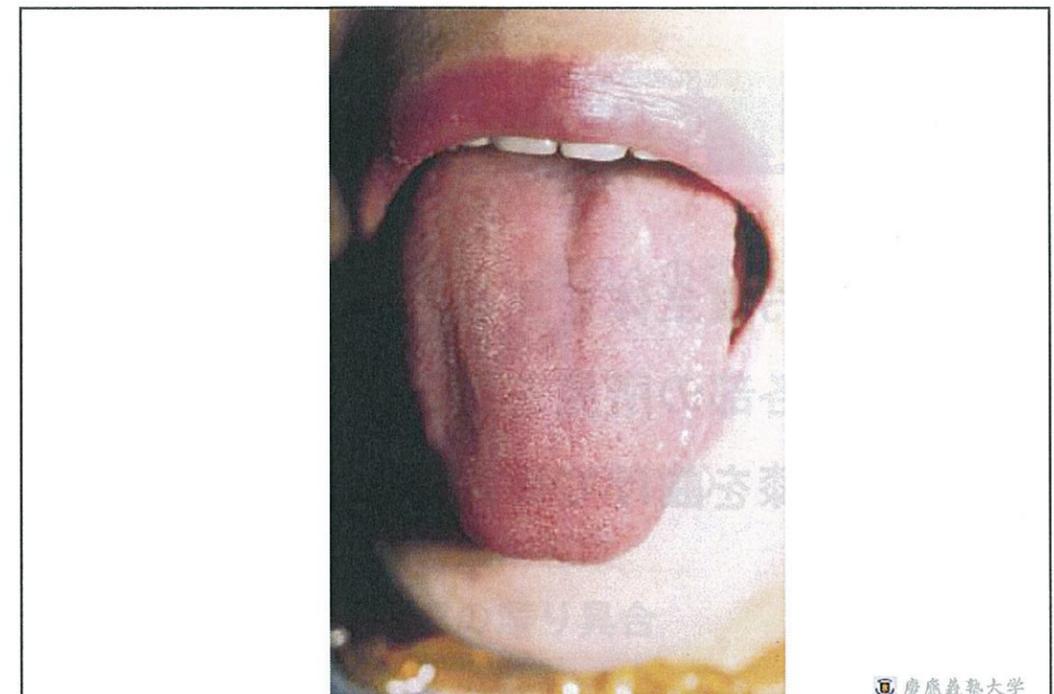
舌歯痕、浮腫



慶應義塾大学

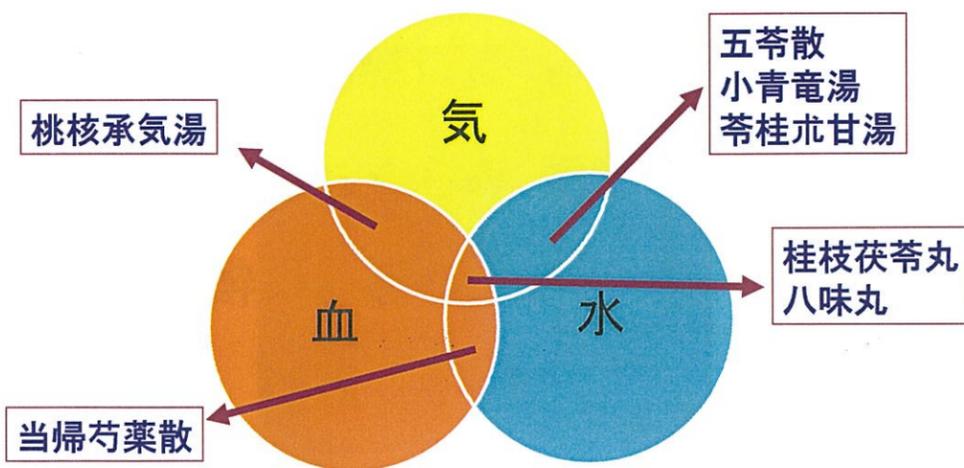


慶應義塾大学



慶應義塾大学

気・血・水の異常に用いる漢方薬



慶應義塾大学

日本の腹診の確立



吉益東洞 (1702-1772)

万病一毒説

すべての毒は腹に出現する

慶應義塾大学

腹診の方法

1. お腹全体を見る。
2. 各部の所見を見る。
3. 膝を曲げて胃内停水を見る。

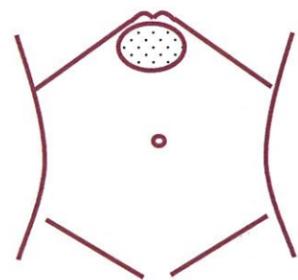
慶應義塾大学

腹部全体の所見

1. 肋骨角
2. 胸部から腹部への移行
3. 腹壁の厚さ
4. 腹力
5. 腹満 (ガスの充満)
6. 腸の蠕動運動
7. 皮膚の湿り具合

慶應義塾大学

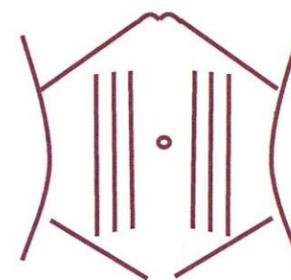
心下痞鞭



处方

半夏瀉心湯
 生姜瀉心湯
 甘草瀉心湯
 人參湯類

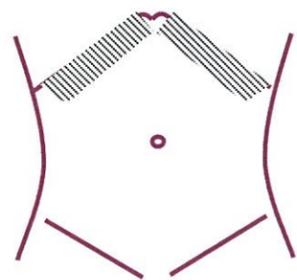
腹直筋攣急



处方

四逆散
 小建中湯
 黃耆建中湯
 桂枝加黃耆湯

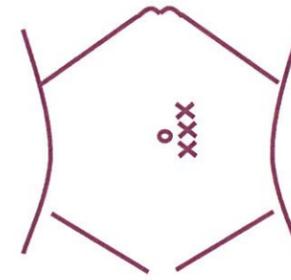
胸脇苦滿



处方

柴胡劑
 (小柴胡湯)
 (柴胡桂枝湯)

腹部動悸



处方

柴胡加竜骨牡蛎湯
 桂枝加竜骨牡蛎湯
 苓桂朮甘湯
 抑肝散加陳皮半夏

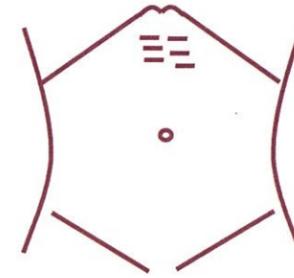
瘀血



処方

桂枝茯苓丸
 当帰芍薬散
 桃核承気湯
 大黄牡丹皮湯

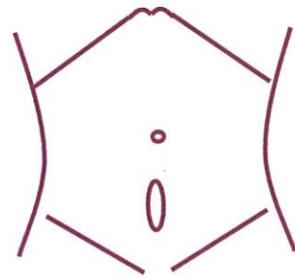
胃内停水



処方

人参湯
 四君子湯
 六君子湯
 茯苓飲
 半夏白朮天麻湯

小腹不仁



処方

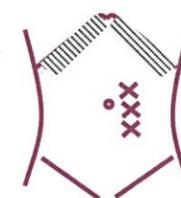
八味丸
 牛車腎気丸

柴胡剤の使い分け

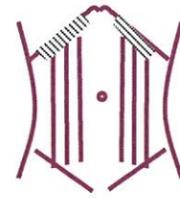
大柴胡湯



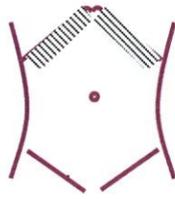
柴胡加竜骨牡蠣湯



四逆散



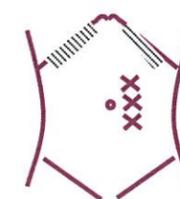
小柴胡湯



柴胡桂枝湯



柴胡桂枝乾姜湯



胃腸疾患の漢方治療

慶應義塾大学医学部
漢方医学センター
渡辺賢治

胃腸にやさしい漢方薬

体調を整えるにはまず胃腸から

先天の気 腎

後天の気 脾胃

漢方薬は内服するのが原則

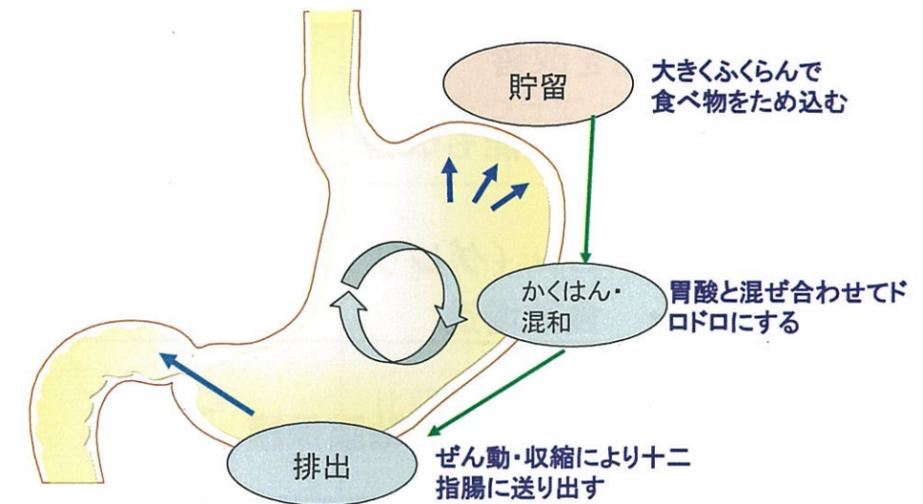
胃腸を元気にすることは全身を元気にする

胃もたれ・食欲不振

機能的胃腸症のタイプ

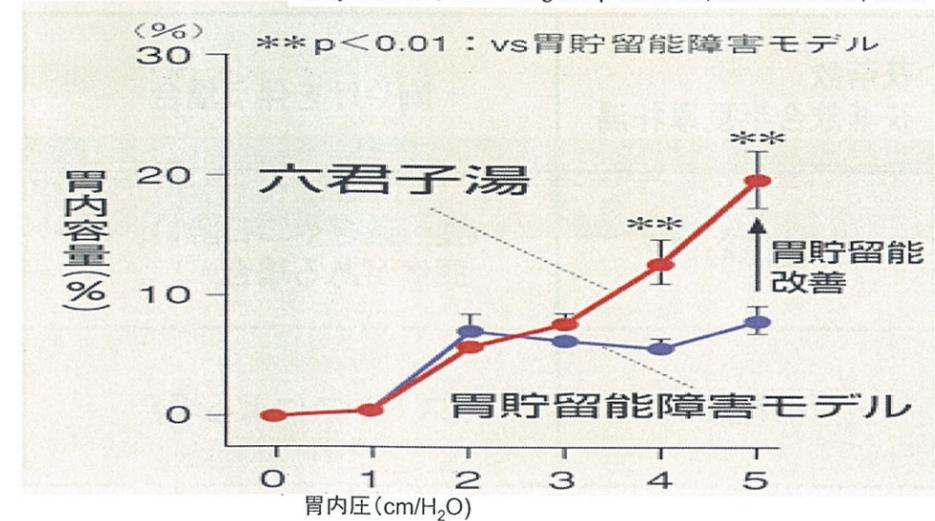
タイプ	主な症状
運動不全型	胃もたれ、食欲不振、腹部膨満感
胃食道逆流型	胸やけ、酸っぱいものがこみ上げてくる
潰瘍症状型	空腹時や夜間の痛み、周期的な腹痛

胃の運動機能



六君子湯が胃の貯留機能を改善

Hayakawa T, et al: Drugs Exp Clin Res, XXV: 211-218, 1999



六君子湯の効果

- 胃の貯留機能を改善
→ 排出機能も改善
- 食欲刺激ホルモン（グレリン）を活性化
→ 食欲増進
- 胃の血流を改善 → 胃粘膜保護

胃もたれに使う漢方薬

茯苓飲 茯苓飲合半夏厚朴湯	胸やけを伴う場合
半夏瀉心湯	食べ過ぎや二日酔い、 頭痛がある場合
平胃散	ストレスによる場合

食欲不振に使う漢方薬

補中益気湯 清暑益気湯 人参湯	食欲をつけて、体力を取り戻す
五苓散	胸やけや吐き気を伴う場合
大柴胡湯	比較的体力がある人で 便秘や 腹部膨満感、肩こりを伴う場合

胃痛・胸やけ

胸やけに使う主な漢方薬

半夏瀉心湯	みぞおちのつかえ、吐き気、食欲不振、下痢を伴う場合
茯苓飲合半夏厚朴湯	胃に水がたまってチャプチャプする場合
安中散	やせ形で腹部の筋肉に力がなく、腹痛、下痢、食欲不振を伴う場合
六君子湯	胃の運動機能を改善して胃酸の逆流を防ぐ

胃痛に使う主な漢方薬

柴胡桂枝湯 四逆散 黄連解毒湯	ストレス性の場合
安中散	胃酸の分泌が多い場合
人参湯	冷えを伴う場合
四君子湯	胃炎全般

主な西洋薬

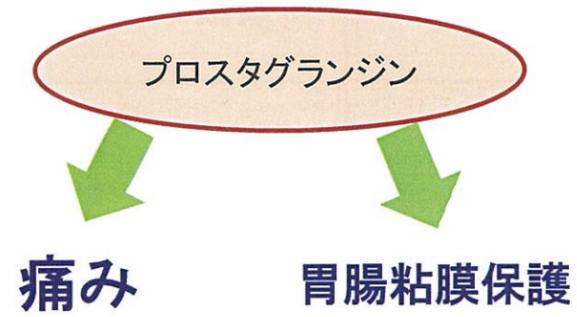
プロトンポンプ阻害薬 H2ブロッカー	胃酸の分泌が多い場合
胃粘膜保護薬	かいよう症状に似た痛みがある場合
胃腸機能調整薬	胃の排出機能が低下している場合

カプセル内視鏡で発見された小腸潰瘍

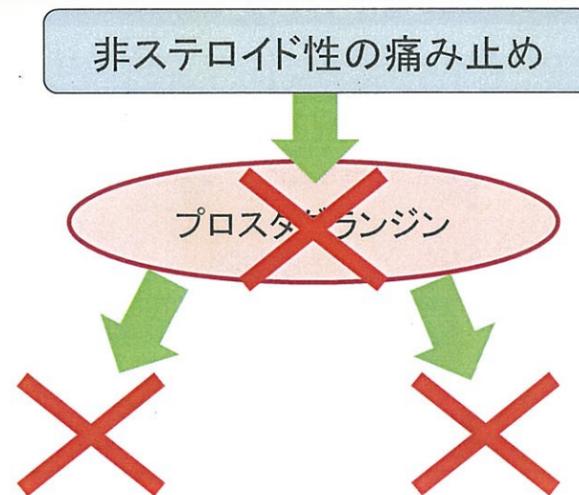


写真提供:
練馬総合病院 栗原直人

黄連解毒湯とプロスタグランジン



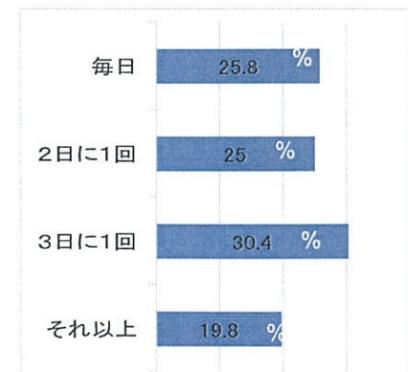
痛み止めと潰瘍の関係



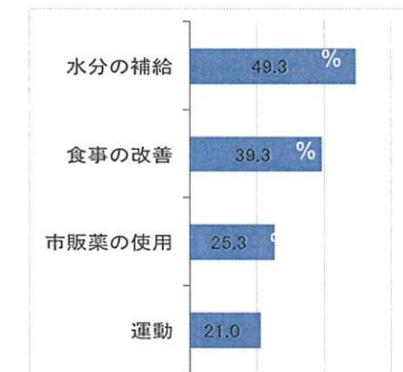
便秘

20~40歳代女性 便通調査

お通じの回数



便秘解消のための取り組み



製薬会社調べより抜粋 2003年

便秘のタイプ

- 原因となる病気がある
(大腸がんやポリープなど)
- 特に病気がない
 - 痙攣性便秘
 - ストレスや睡眠不足などが原因
 - ウサギのフンのような硬くて小さい便
 - 弛緩性便秘
 - 運動不足や食物繊維の不足などが原因
 - 女性や高齢者、ダイエット中の人に多い

生活習慣の改善で便秘を解消

- **痙攣性便秘**
 - 規則正しい生活やストレスをためない生活
 - 腸を刺激する飲食物を避ける
(冷たい飲み物や香辛料など)
 - 脂肪の多い食事やアルコールなどは控える
- **弛緩性便秘**
 - 腹筋を鍛える運動
 - 食物繊維をとる (野菜・海草・きのこ など)
 - 腸を刺激する飲食物をとる

主な便秘薬の種類

腸を刺激するタイプ	・大腸の粘膜を刺激し、腸のぜん動運動を促進 ・腹痛が起きやすい
便をやわらかくするタイプ	・水分で便をやわらかく大きくし、腸を刺激してぜん動運動を促進
浣腸・座薬	・直腸を刺激したり、腸内に炭酸ガスを発生させて腸の動きを活発にする

実証の便秘に適した漢方薬

大黄	大黄甘草湯		一番基本的な処方
	大柴胡湯		肩こりや上腹部がはる場合
	三黄瀉心湯		のぼせ、イライラ、不眠を伴う場合
	芒硝	桃格承気湯	月経不順を伴う場合
防風通聖散		肥満やむくみを伴う場合	

虚証の便秘に適した漢方薬

大黄 含む	桂枝加芍薬大黄湯	過敏性腸症候群の便秘
	麻子仁丸 潤腸湯	ウサギのフンのような便が出る場合（特に高齢者）
大黄 なし	桂枝加芍薬湯 小建中湯	便秘と下痢を繰り返す 過敏性腸症候群
	大建中湯	腰痛や手足の冷え、 おう吐を伴う場合

下痢・過敏性腸症候群

大建中湯投与は腸の血流量を増やす



下痢に使う主な漢方薬

真武湯	高齢者や 冷えて下痢をする場合
大建中湯 中建中湯 小建中湯	冷えて腸のはたらきが 悪くなっている場合
半夏瀉心湯	実証の人で お腹がゴロゴロと鳴る場合

過敏性腸症候群のタイプ

タイプ	主な症状
下痢型	激しい腹痛の後、下痢を起こす
便秘型	腹痛とウサギのフンのような便 (けいれん性便秘)
交替型	便秘と下痢をくり返す

過敏性腸症候群の主な漢方薬

芍薬

桂枝加芍薬湯	体力がなく胃腸の弱い人 (虚証の人)
小建中湯	虚証の人、小児

アレルギー性疾患の漢方治療

花粉症の漢方治療

くしゃみ・鼻水型鼻炎に用いる漢方薬

麻黄が使えるもの

小青竜湯 若年者で胃腸が丈夫なもの。

麻黄附子細辛湯 中高年の第一選択薬（ただし血圧の高い場合は除く）。

麻黄が使えない場合

苓甘姜味辛夏仁湯 胃腸が弱く、顔色も悪いもの。

当帰四逆加呉茱萸生姜湯 冷え症で、寒冷刺激により症状が悪化するもの。

鼻閉型鼻炎に用いる漢方薬

葛根湯（加川芎辛夷） 若年者の膿鼻漏。

辛夷清肺湯 中高年者の後鼻漏。

喘息の漢方治療

気管支喘息に対する漢方治療の適応

1. 軽度の発作、痰の切れが悪いもの
咳のみが目立つもの
2. 発作間欠期に免疫機能の改善を図る
3. 重症の発作重積状態は、西洋薬による治療を優先する

標治療法と本治療法

標治療法：症状治療

本治療法：体質改善

気管支喘息発作時に用いる漢方薬 (標治療法)

麻杏甘石湯

五虎湯

神秘湯

小青竜湯

越婢加朮湯

苓甘姜味辛夏仁湯

気管支喘息寛解期に用いる漢方薬 (本治療法)

柴朴湯

大柴胡湯

四逆散

柴胡桂枝乾姜湯

五苓散

当帰芍薬散

参蘇飲

竹筴温胆湯

高齢者の気管支喘息の特徴

1. 非アトピー型感染型喘息が多い。
2. 不可逆性の気管支閉塞部位ができる。
3. 局所および全身の老化から気道感染を起こしやすく、また慢性化しやすい。
4. 肺気腫、慢性気管支炎の合併が多い。
5. 高血圧、心疾患など、成人病の合併例が多く、その治療薬による気管支喘息が悪化することがある。
6. ステロイド依存の難治性喘息になりやすい。

高齢者の気管支喘息に用いられる漢方薬

八味丸	六君子湯
真武湯	竹筴温胆湯
補中益気湯	参蘇飲
麦門冬湯	喘四君子湯
清肺湯	

気管支喘息症例 1

症例:68歳、男性
主訴:呼吸困難
現病歴:59歳で初めて気管支喘息の発作があった。喘鳴と軽度の咳嗽を伴う。平成8年2月2日、気管支喘息治療のため、北里研究所病院入院中に漢方外来を受診した。食後腹満がある。
既往歴:幼少時、肺炎。30歳、痔瘻
漢方医学的所見:舌は湿、薄い白苔あり。脈、沈。腹力、中等、右胸脇苦満
経過:初診時、小柴胡湯合半夏厚朴湯を投与。退院
同年3月、4月、5月発作のため入院。
平成8年9月 小柴胡湯合麻杏甘石湯 以後経過良好
平成9年5月 八味丸料(附子1)
平成9年6月 少し喘鳴があり、八味丸料加麻黄、杏仁とする。
以後経過良好で発作時、ネオフィリンの点滴はするが、一度も入院していない。

気管支喘息症例 2

症例:41歳、男性
主訴:呼吸困難
現病歴:幼少時より、風邪を引くと少し喘鳴があった。平成8年7月、風邪を引いてから呼吸困難が持続するために来院。
既往歴:特記すべきことなし 家族歴:父、兄、気管支喘息
漢方医学的所見:舌は湿、薄い白苔あり。舌下静脈の怒張あり。脈、弦。腹力、中等、両側胸脇苦満あり。
経過:初診時、小柴胡湯合麻杏甘石湯を投与。2週間後、呼吸困難が取れ、眠れるようになった。
平成8年9月 発作はない。
平成8年10月 ジョギングすると軽度喘鳴あるが、呼吸困難なし。
平成8年12月 胃潰瘍を併発。柴胡桂枝湯に変方。
平成9年2月 漢方薬を1日おきにする。
平成9年11月 治療中止

気管支喘息症例 3

症例:15歳、男性
主訴:呼吸困難
現病歴:2歳より、気管支喘息。テオドール内服、インタール、アルデシン吸入。IgE 650 小発作が一日に2~3回あり、平成10年1月初診。
既往歴:特記すべきことなし 家族歴:父、アトピー性皮膚炎
漢方医学的所見:舌は湿、薄い白苔あり。脈、平。腹力、中等、右胸脇苦満あり。両側腹直筋攣急あり。
経過:初診時、神秘湯を投与。
2週後 発作相変わらず。声が出にくい。
4週後小発作一日2~3回 五虎湯に変方
平成10年3月 発作なし。運動すると息苦しい。
平成10年4月 小発作が少し起きる。
平成10年7月 梅雨時でも発作がなかった。PF500前後
平成11年3月 調子よい。四逆散料に変方
平成11年5月 発作なく、PF500前後

気管支喘息症例 4

症例: 4歳、男性

主訴: 呼吸困難

現病歴: 1歳7ヶ月より、気管支喘息。ザジテン、ホクナリン、テオドールを内服。インターール、ベネトリンを吸入。RAST、卵白、大豆、ダニで陽性。顔面、手にアトピー性皮膚炎あり。平成10年1月初診。

家族歴: 従兄弟に一人気管支喘息。

漢方医学的所見: 舌は湿、舌苔なし。脈、平。腹力、中等、腹満あり。

経過: 初診時、葛根湯を投与。

2週後 薬はのめた。喘息発作はない。

平成10年2月 発作なし。皮疹の改善ないため、黄耆建中湯に変方。

平成10年7月 喘息発作が少し起きたため、五虎湯に変方。

平成10年12月 以後、喘息発作はないが、皮疹改善しないため、温清飲に変方。

以後、現在に至るまで、喘息発作はなく、喘息の薬はすべて中止している。しかし、アトピー性皮膚炎は増悪、緩解を繰り返している。

疼痛に対する漢方薬

変形性膝関節症

- 桂枝加朮附湯 胃腸虚弱で冷え、湿気で痛みの増強するもの
- 防已黄耆湯 水太りタイプで膝に水が溜まっているもの
- 越婢加朮湯 局所に熱感、腫脹があり、胃腸の丈夫なもの
- 越婢加朮湯合防已黄耆湯
- 疎経活血湯 筋肉がつる、しびれる、飲酒、疲れで痛みが増強する

腰痛

- 芍薬甘草湯 ぎっくり腰などの時の頓服で用いる。別名去杖湯ともいう。
- 五積散 「五積」とは気・血・痰・寒・食の5つが体内に蓄積し、生体の機能障害を起こしている、という意味である。冷えのぼせタイプ。
津田玄仙の四つの目標は、①腰冷痛②腰股攣急③上熱下冷④小腹痛である。
- 八味地黄丸、牛車腎気丸(107) 高齢者の腰痛。
- 桂枝加朮附湯 胃腸虚弱で冷え、湿気で痛みの増強するもの。
- 疎経活血湯 筋肉がつる、しびれる、飲酒、疲れで痛みが増強する。

関節痛

麻黄剂（局所に熱感がある。）

- 麻杏薏甘湯 疼痛の初期に用いる。
- 越婢加朮湯 炎症の初期で、局所の熱感に加え、腫脹が著明で、発汗、口渇、尿不利がある。
- 薏苡仁湯 麻杏薏甘湯に加え、腫れがあり、血流が悪い。
- 葛根湯（葛根加朮附湯）

麻黄剂以外（局所に熱感がない。）

- 桂枝加朮附湯 胃腸虚弱の者で最も頻用される。早期のみでなく、中期、後期にも使える。
- 大防風湯 十全大補湯の疼痛加減で、遷延化、消耗した状態に用いる。

牛車腎気丸の鎮痛作用

